

労働市場の特殊性と失業の概念

ケインズの非自発失業は価格機構の機能不全から起こる。価格機構の機能不全がなくても失業は起こり得る。

I. 失業率の観察

A. 労働力人口

1. 生産年齢人口（15 歳以上人口）
2. 労働力率： 生産年齢人口に占める労働力人口の割合
 - a. 労働の能力
 - b. 労働の意思

B. 観察上の失業の定義 — 労働力人口の内訳（毎月末 1 週間の観察）

1. 就業者
 - a. 自営業主
 - b. 家族従業者
 - c. 雇用者（常雇，臨時雇，日雇） 常雇は常用労働者ともいう。
2. 完全失業者
 - a. 就業者ではない
 - b. すぐに仕事に就くことができる
 - c. 仕事を探している

II. 労働市場の特殊性

A. 労働力人口

1. 異質性（労働の質，就業機会）
2. 流動性
 - a. 流入と流出 年齢 縁辺労働
 - b. 転職

B. 摩擦要因

1. 情報伝播の不完全性
2. 移動の費用
 - a. 空間の移動
 - b. 職種間移動

III. 失業に関する二つの見方

A. ケインズの「非自発」失業 involuntary unemployment

1. ワルラス不均衡
 - a. 需要制約が有効
 - b. 価格機構の機能不全
2. 二種の原因

- a. 自発的原因： 法律，労働組合，社会慣行
- b. 非自発的原因： 不完全情報，不確実性，貨幣

In addition to ‘frictional’ unemployment, the postulate is also compatible with ‘voluntary’ unemployment due to the refusal or inability of a unit of labour, as a result of legislation or social practices or of combination for collective bargaining or of slow response to change or of mere human obstinacy, to accept a reward corresponding to the value of the product attributable to its marginal productivity.

Keynes (1973), p. 6.

B. ワルラス均衡の失業

1. 求人と求職の不適合による失業
2. 摩擦失業

参考文献

John M. Keynes (1973) *The General Theory of Employment, Interest and Money*. Collected Writings of John Maynard Keynes. VII. London: Macmillan. (The original first edition, 1936.) Chapter 2.

Robert W. Clower (1965) “The Keynesian Counter-revolution: A Theoretical Appraisal.” In *The Theory of Interest Rates*, Proceedings of a Conference held by the International Economic Association, edited by Frank H. Hahn and Frank P. R. Brechling. London: Macmillan.

Robert E. Lucas, Jr. (1987) *Models of Business Cycles*. Oxford: Basil Blackwell.

吉川 洋 (1984) 『マクロ経済学研究』東京：東京大学出版会。

総務省 『労働力調査』

厚生労働省 『数字で見る雇用の動き：雇用動向調査』

内閣府経済社会総合研究所 『経済財政白書 平成 14 年版』

付録： ワルラス均衡とケインズ均衡

A. ワルラス均衡

1. 均衡条件

- a. 初期資産制約の下での効用の最大化
- b. 生産技術制約の下での利潤の最大化
- c. 需要供給の均衡

2. 資源の有効利用

- a. 影の価格 shadow prices
- b. 市場での影の価格の実現

B. ケインズ均衡

1. 「古典派」経済学批判

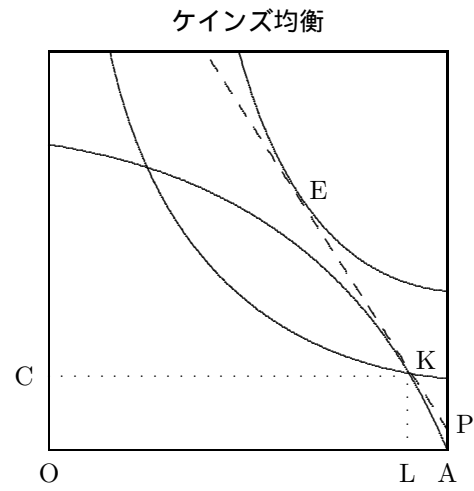
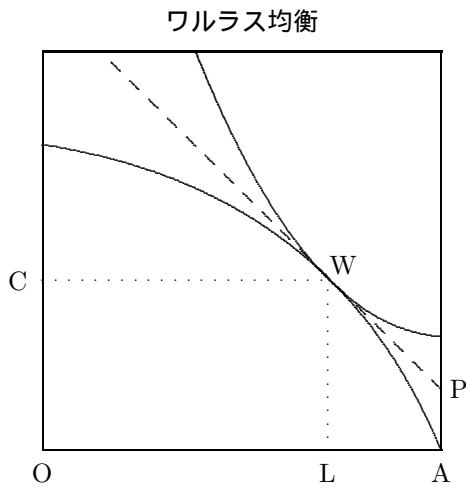
- a. 「古典派」経済学の第 1 基本前提の否定

$$\frac{u_x}{u_c} < w \leq f_l(k, l), \quad w : \text{実質賃金率}$$

- b. セーの販路法則の否定 — 過剰貯蓄（過剰生産）

2. 需要制約の均衡

- a. 価格の硬直性
- b. 消費関数



上図，ケインズ均衡では『一般理論』にしたがい「古典派」経済学の第1基本前提

$$f_l(k, l) = w$$

の関係が成り立つ場合を示している．ケインズ均衡の一般的な性質は，

$$\frac{u_x}{u_c} < w \leq f_l(k, l)$$

である．